一般財団法人　　第 10 号:2024 年 12 月

芹沢光治良記念文化財団 ニュース（10）

ご挨拶　“行く年来る年”　　代表理事　勝呂 奏

高浜虚子の俳句に、〈去年今年貫く棒の如きもの〉がある。学校の国語教科書などでお馴染みで、知っている方も多いだろう。ここに〈貫く棒〉に喩えられているものには、様々な解釈がされている。例えばそれを時間とするならば、本来は眼に見えないものを、見事に可視化している。そこから不変の信念を読み取ることもできるだろう。

ここで虚子の俳句を思い出したのは、行く年来る年の時期を迎えて、当財団に集う会員にとって、芹沢光治良の文学精神が〈貫く棒〉に考えられたからに他ならない。多くの会員が芹沢作品で今年の読み納めをし、芹沢作品で新年の読み初めをするに違いない。芹沢の文学はそのようにいつも座右にあって、読者との対話を深めているのである。

財団はこのような会員の思いと共にあって、芹沢文学を読み継ぐための取り組みを続けている。4 点目を数えた『芹沢光治良ノート』の制作や、毎年の講演会や朗読会の企画がそれである。開かれた運営になるように心掛け、会員だけでなく会員以外の方たちにも喜ばれるものにしたいと考えている。財団は皆様のご支援を得て活動を発展させ、芹沢文学の精神がこれからも長く〈貫く棒〉であるように努めたい。

最後にささやかな年の瀬の贈物、新年のお年玉になるような資料をお届けしよう。芹沢が作家になってから、改めて大学に入り直して文学の勉強をしようと思い立ったことが知られている。しかし、それはこれまでいつのことか、真偽も含めて判らなかった。それが昭和 9 年 3 月 4 日付『讀賣新聞』の「展望台」欄に、「芹沢光治良の発願」として記されている。

> フランス文学の達識芹沢光治良氏が日本文学研究を発願して目下帝大国文科へ入学方を出願中だが氏は経済学士の肩書があるだけに優先権をもつこととなるので帝大側では向ふ三年間修学のおつもりなりやとか、芹沢氏の文名既に高きを見て再考を願ふとやつたが根が真面目な彼氏だけにこのアカデミツク的警告にはホトホト弱つてゐる。

記事にもあるように、芹沢は〈文名既に高き〉にも関わらずである。この向学の姿勢には、頭が下がると言っただけでは足りないように思う。芹沢には〈去年今年〉というのでなく、やはり〈貫く棒〉が生きられていたのである。

それでは皆様、どうかつつがない年末年始をお過ごし下さい。

《お知らせ》『神の微笑』（新潮文庫）電子書籍化決定！！

配信開始日 2024 年 12 月 20 日（価格 693 円）

長く入手できなかった『神の微笑』が電子書籍化されて、Kindle などで読めるようになります。ご期待ください。

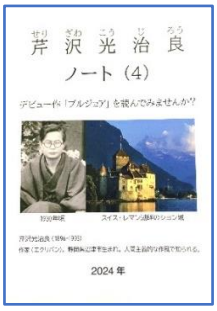
事務局より報告

■2024年度を振り返って

(1)『ブルジョアー結核患者　ポストカード　発行』『2024 年 1 月』

(2)『芦沢光治良ノート④　発行』『2024 年 5 月』

(3)『財団ニュース⑨　発行』　『2024 年 5 月』



(4)『芦沢光治良生誕 128 年『芦沢光治良と音楽と･･･』
～講演と歌の調べ～　「2024 年 6 月 22 日」

○「芦沢光治良と音楽」豊田英文
・光治良が聞いた音楽、見た映画、オペラ。
○「歌の調べ」　野田ヒロ子
“アヴェ マリア”（芦沢文子）
“トスカ”　プッチーニ　等

※光治良先生の愛したパリでの音楽、オペラの講演と、芦沢文子先生の愛弟子の野田様の歌声に、５０名の皆さんは酔いしれていました。

(5) 芦沢光治良作品　『神の微笑 読書会』『2024 年 12 月 15 日』
“『神の微笑』(第 1 章･2 章)　朗読”
･朗読者　難波 善明　大前 洋子
（東中野で活動している「劇団じゃけん」のお二人）
※「神の微笑」の朗読会は、朗読というよりも、言葉を大切にした
まるで演劇を目を閉じで感じるような、楽しい朗読でした。

全国の芹沢文学読書会“２０２４年”を振り返って

（１）札幌芹沢文学読書会（北海道札幌市）　代表者 加藤怜 Tel（011-381-7531）

会員は八名です。少ない人数ですが皆さん熱心な方ばかりです。
（横浜在住の高田博次様が遠隔会員になって下さって時にはご来札されて講演や資料配布、通常はテキストの感想をラインで送ってくださいますので心強いです）
今現在のテキストは神シリーズですが、一冊終了後には、ガラリと変えて短編小説、エッセイにしています。
読書会発足時は短編小説でしたが思い立って大河作品「人間の運命」に取り組むことに致しました。
全十四巻を読み終えるのに約十四年かかり、毎回とても充実した読書会でした。
その翌月には高田様がご来礼下さって芹沢文学の神髄とも言うべき素晴らしい講演をして下さいました。そして、神シリーズですが今はご高齢で施設に入られた元会員のたっての望みでした。
実証主義者の芹沢先生の不思議なご体験の作品は正に現代の聖書とも言うべき偉大な全八冊の神シリーズです、私達は毎月のテキストとしてじっくり話し合っております。
12 月の読書会のテキストは、神シリーズ第五巻「人間の意志」一章～三章の予定です。

以上

（２）川越・芹沢光治良文学愛読者の集い（埼玉県）代表者 小林茂樹 Tel（090-4228-3289）

川越・芹沢光治良文学愛読者の集い」は愛読歴６０年の私と、愛好会会員の加藤優男　さんの二人で立ち上げ主催しているイベントです。川越市広報に掲載をお願いしてＰＲに努めています。「人間の運命」を読まれたという二人のご婦人の参加を受けた際には、ＤＶＤ芹沢光治良―ゆかりの人完全版を観賞していただき初恋の女性、鞠子さんを話題にできました。画家のご婦人から佐伯祐三画伯に関する資料を求められた際には複数の作品と共に佐伯米子夫人の雑誌掲載文も加えて喜んでいただきました。元ＪＲ革マル派の男性の参加を受けた際に「集い」は「宗教」と同じではないか？と問われましたが、私は芹沢教の信者と言われても仕方ありませんが、お布施をいただくことはありませんと応えました。
今年のトピックスは、加藤優男さんに「風が吹いて」愛好会発行の著作目録のエクセル版にご自分の蔵書と愛好会より得た題材コピーのすべてを挿入することが出来て、さらに時系列を整理したことです。
私も自分のノートに年代順に作品名を記録していましたので、エクセル版の記録と自分ノート記録との照合チェックに奮闘、２５００種の整合をしたことです。著作目録を作成された池田三省氏のご苦労を追体験した感があります。更に加藤優男さんは「万里子文庫」の開設の準備を始めて、川越近在の隠れファンのための研究資料を提供出来る予定です。芹沢光治良文学の愛読者だけでなく、これから芹沢光治良文学に関心を寄せる人たちのお役に立てることは「集い」主催者として誇りに思います。　**以上**

（３）芹沢光治良文学愛好会（東京都）　　代表者 豊田英文 Tel（090-8511-4386）

芹沢光治良文学愛好会は、１か月に１回芹沢先生の作品や評論の読書会議や講演会を行っています。
和楽の精神で皆さん集まり、活発に討論しては先生の作品に感動したり、時には批判したり、また、作品の裏にあるものを想像したり、愛好会先輩方から芹沢先生と会って会話された様子を聞いて、驚いたりしています。
皆さん、この会は１２月７日（土）で、５３９回を迎えました。次の節目である６００回を目指して、何か企画を考えていきます。１月からの月例会から少し時間をもらい話し合って行きます。あと６年後に６００回は来ます。あっという間です。
ところが、楽しいことばかりではありません。私達は先生とゆかりがある東中野で読書会をしていますが、この会場である東中野区民活動センターは、会員の方の努力で借りれられています。しかし数年先は中野区在住、在勤という要件を満たす事ができない「Ｘデイ」が訪れます。東中野のこの地で、読書会を永遠に出来ればと考えています。
皆様のお知恵を借りたいと思います。よろしくお願いします。

以上

（４）横浜芹沢文学読書会（横浜市）　　代表者 池田三省 Tel（080-5088-1660）

小さな喫茶店で読書会を始めて 10 年目を迎えます。毎月１回１０名位で、珈琲を飲みながら楽しく読書会を行っています。
神シリーズ全 8 巻を２回、読破しましたが、どれほど芹沢光治先生の神に近づけたか問題ですが・・・。
今年の 6 月から、「完全版 人間の運命」を始めました。
読書会の形式を「当日、全員で読む」に替えました。
当日、財団 HP に記載されている「人間の運命」の朗読を聞きながら、各自が黙読する。
そして、配布される「簡単なレジメ」に添って感想を話し合っています。
予習の必要はありません。参加するだけで楽しい読書会となります。
お近くの方で興味のある方はご連絡ください。

以上

（５）沼津芹沢光治良文学愛好会（静岡県沼津市）　代表者 不破久温 Tel（090-6023-5629）

○「神の計画」・「風迹」・「結核患者」・「ブルジョア」などを巡り『四つの対話』を試みました。 ①作品との対話　②著者との対話　③読書仲間との対話　④自分自身との対話です。
○「光治良先生を偲ぶ」プログラムを二つ実施しました。
①会員の山田本平（もとひら）さんに「沼津御用邸」や島郷浜の思い出を聴きました。本平さんの祖父は、楊原小学校で光治良さんの一年後輩だったそうです。
②５月４日、光治良先生の誕生日に我入道の記念館で、「巴里に死す」（抜粋）の朗読。
・光治良先生が娘たちに歌って聴かせたアヴェ・マリアと菩提（シューベルト）、巴里を愛した日本人の歌曲、「お菓子と娘」（西條八十）のソプラノ演奏、ベート

ーヴェンのソナタ「悲愴」第二楽章などを電子ピアノ演奏で楽しく聴きました。
〇来年は光治良先生のフランス渡航から 100 年。
先生が彼の地で自身に培われたものを偲ぶと、意外にも音楽芸術が見えてきます。

以上

（６）芝川読書会　（静岡県富士宮市）　代表者 青木秀夫 Tel（0544-65-3615）

月例会が２０２５年２月に２００回を迎えます。台風でもコロナ禍でも休まず続けました。「神シリーズ」に出てくる心の修行になるような読書会をしようと始めたのです。「神シリーズ」を一通り読みましたが、体感できず３回繰り返し読みました。それでも修行が足りないようで、「教祖様」を読みました。聖書と対比したり、天理へ行って別席に参加したり、芹沢清さんからお話を聞いたりしました。教祖様のご苦労も知って、心の修行卒業試験として「人間の運命」を読むことになりました。私利私欲を捨て、先入観をもたず、作者の真意を知り、それを日常生活に生かすのです。無言の業の時間が多く、下世話な話題で盛り上がりました。また「神シリーズ」を読まなくてはという声も聞こえています。
読書会の継続は小さいながら心の修行ができて、その集合力があったからです。
この力、まだまだ大きくなりそうです。

以上

（７）芹沢文学愛読者の会（名古屋市）　代表者 安井正二 Tel（0561-39-3306）

私たち名古屋の「芹沢文学愛読者の会」では、会の５０周年を祝う集いを行いました。芹沢先生の「人間の運命」に出会い、魅せられ、その感動を朝日新聞に「ひととき」欄に投稿したことがきっかけで、熱心な芹沢文学ファンから１０通ほどの便りが届きました。その人たちとたがいに文通し合ううちに、家族ぐるみの交際が始まりました。やがてそれが輪になり誕生したのが「芹沢文学愛読者の会」です。
この会が今年で５０周年を迎えました。コロナ禍も落ち着いた 6 月 9 日、名古屋で「芹沢文学愛読者の集い」を開きました。
この日、全国の芹沢文学ファン（４２人）が出席してくださって、５０周年を祝っていただきました。

以上

（８）岡山芹沢文学読者会（岡山県福山市）　代表者 桑田幸真 Tel（090-7997-5593）

岡山においての「芹沢文学」読書会は 2 年目を迎えます。
第 3 日曜日に、倉敷にある公民館に、8～10 名が集まり、「神シリーズ」を 1 章ずつ読み進めております。
2024 年は「神の慈愛」第 1 章から第 12 章まで、偶然にも月数と同じくして、読み進めています
読書会ですので、宗教集会とは違い、それぞれがそれぞれの宗教観を持ちながら進めています。（天理教、無宗教の方々が半数ずつです）

まずは共同代表の山本信夫さんから、章に関連したトピックスを発表して頂き、その後、それぞれの感想を述べていくスタイルです。
各人が、神について、大自然について、親様について、思うことを遠慮なく発表しています。
最も盛り上がった部分は、７章に記されている「神の微笑」が「7 月 21 日」に発売予定であったこと、同時に光治良先生が「21 のほこり」を払われたこと。これと偶然に読書会の日が「7 月 21 日」であったことに気が付き、「決して偶然ではない」と皆で喜び合いました。

以上

（９）芹沢文学・大分友の会　（大分県）　　代表者 小串信正 Tel (0978-77-0565)

①１月 14（日）午後 10 時～12 時『第 165 回・芹沢文学読書会』大分県立図書館研究室 No5
テキスト「芹沢光治良文学館　12.」（新潮社）120-129 頁『文学者の運命』
随筆①「小説家の不運」　　随筆②「改造友の会」
〇同封資料　鈴木秀子対談集「ごきげんいかが？」の「あとがき」山田尭子

②3 月 10 日（日）午後 10 時～12 時『第 166 回・芹沢文学読書会』大分県立図書館研究室 No5
テキスト「芹沢光治良文学館　12.」（新潮社）130-139 頁『文学者の運命』
随筆①「わが書斎の珈琲はうまかった」　随筆②「他人の原稿を読んで」
〇同封資料「世界を相手にする作品」芹澤光治良　雑誌＜文藝＞昭和 30 年 4 月号

③5 月 19 日（日）午後 10 時～12 時『第 167 回・芹沢文学読書会』大分県立図書館研究室 No1
テキスト「芹沢光治良文学館　12.」（新潮社）239-298 頁『こころの広場』思い出すこと
随筆①「海に鳴る碑」と「愛と知と悲しみと」　随筆②「二 青春小説」
〇同封資料「世界を相手にする作品」芹澤光治良　雑誌＜文藝＞昭和 30 年 4 月号

④７月１９日（日）午後 10 時～12 時『第 168 回・芹沢文学読書会』大分県立図書館研究室 No5
テキスト「芹沢光治良文学館　12.」（新潮社）246-254 頁『こころの広場』思い出すこと
随筆①「三 パリで死んだ二人の女主人公」　随筆②「六 仏訳された小説」
〇同封資料 随筆「伊豆の西海岸と尾瀬の街」芹澤光治良　雑誌＜旅＞昭和 35 年 8 月号

⑤9 月 8 日（日）午後 10 時～12 時『第 169 回・芹沢文学読書会』大分県立図書館研究室 No5
テキスト「芹沢光治良文学館　12.」（新潮社）254-261 頁『こころの広場』思い出すこと

随筆①「五 宗教をテーマにした作品だというけれど」
随筆②「四 人生をテーマにした小説」
〇同封資料 随筆「この一年」芹澤光治良　雑誌＜世界文化＞昭和 21 年 4 月号
⑥11 月 17 日（日）午後 10 時～12 時『第 170 回・芹沢文学読書会』大分県立図書館研究室 No5
テキスト「芹沢光治良文学館　12.」（新潮社）262-268 頁『こころの広場』思い出すこと
随筆①「七 「われに背くとも」と　「遠ざかった明日」との余韻」
随筆②「八 短編小説について」
〇同封資料 資料①「大河小説『人間の運命』関係年譜」小串信正作成

以上

（10）沼津市芹澤光治良記念館　　**副主任 剱持直樹 Tel（055-932-02555）**

沼津市芹沢光治良記念館では、本年３月まで、前年の市制 100 周年記念事業として本市名誉市民の文学者である芹沢光治良、井上靖、大岡信の３氏を中心に本市縁の文学者を紹介する出張展示を市内２か所で実施しました。また、中学生を対象とした記念誌を作成し、HP での公開や市内中学校全 19 校へ配布しました。

新年度から、企画展「『人間の運命』の舞台を旅する」全２回の他、展示説明会、文学講演会、出前講座、出張展示や文学散歩を実施しました。さらに、静岡県の「文学情報発信拠点化連携モデル事業」として一般社団法人伊豆文士村と連携し、光治良が作詞作曲した香貫小学校校歌などを取り上げた展示「校歌という郷土文学」等を実施しました。この他、地元我入道稲荷町松和会と協働して館周辺清掃作業や、沼津芹沢光治良文学愛好会と協働して花壇植栽なども行いました。いずれも多くの皆様のご支援やご協力を得て実施することができました。

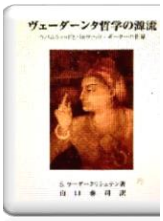
（参考）事業等一覧
以下、時系列順　（実施場所は表記が無い場合は当館）
・1/5～21　出張展示「沼津ゆかりの文学者たち」　於：沼津市立図書館４階
・2/2～18　ミニ出張展示「沼津ゆかりの文学者たち」　於：戸田図書館２階
・2/23　富士山の日記念無料開館＆展示説明会（全３回）
・2/26　令和５年度第２回沼津市芹沢光治良記念館懇話会
・～5/31　企画展「沼津ゆかりの文学者たち」（第２回）
・3/9　光治良忌（主催：沼津芹沢光治良文学愛好会　協力：当館）
・3/9　出前講座「企画展「沼津ゆかりの文学者たち」（第２回）について」
・3/31　市制 100 周年記念誌『読む×見る×わかる沼津の文学』発行
・5/4　芹沢光治良生誕日記念無料開館＆企画展「沼津ゆかりの文学者たち」展示説明会（全３回）同時開催　芹沢光治良を偲ぶ会（主催：沼津芹沢光治良文学愛好会）
・6/9　我入道稲荷町松和会と記念館周辺協働清掃作業
・6/15～12/1　企画展『人間の運命』の舞台を旅する（第１回）
・8/21　静岡県民の日記念無料開館＆展示説明会（全３回）

・9/15　出前講座「企画展『人間の運命』の舞台を旅する（第１回）」於：沼津法律会館
・10/19　作家・芹沢光治良ゆかりの地バスツアー　沼津市内
・10/28　令和６年度第１回沼津市芹沢光治良記念館懇話会
・11/6～30　２階市民ギャラリー展示「校歌という郷土文学」
（主催：一般社団法人伊豆文士村、協力：当館）
・11/16　第 12 回芹沢光治良文学講演会　講師北村暁子氏（新潮社）
於：沼津市立図書館４階
・11/24　校歌という郷土文学トーク＆合唱　「香貫小学校校歌と芹沢光治良」
（登壇：副主任　剱持直樹　聞き手：伊豆文士村理事　神田航平氏　合唱：伊東市少年少女合唱団）
・12/2～7　館内収蔵資料の燻蒸
・12/8　我入道稲荷町松和会と記念館周辺協働清掃作業
・12/21～　企画展『人間の運命』の舞台を旅する（第２回）

以上

財団い寄贈された図書の紹介

○『春のはなびら』（吉田書店）　大野一道
・・戦争の残照　わが幼年時代・・
○ヴェーダーンタ哲学の源流（文化書房博文社）
S. ラーダークリシュナン著　　山口泰司　訳



芹沢文学のまわりで　シリーズ（６）

野見山恵美子　　芹沢光治良記念会（学芸・作品資料）担当

先日の「『神の微笑』朗読会」の折に、参加者の M さんが美術家・作家の横尾忠則さんは芹沢文学をとても良く読んでいると話され、勝呂代表理事からは『戦中戦後日記』が出版された際に、朝日新聞の書評委員である横尾氏が<ぱっと手を挙げて、僕がやります！>と引き受け、日ごろから注目していて、関心を持っていたエピソードを聞いた。

光治良先生の生き方・哲学を、芹沢文学の本質を深く理解して書かれた、その書評を今回は紹介させていただきます。

■朝日新聞書評：評者：横尾忠則氏 ／ 朝日新聞掲載：2015 年 05 月 24 日

書評：芹沢光治良戦中戦後日記：

真珠湾攻撃による太平洋戦争開戦の年の1月から終戦後3年までの「死路を辿（たど）る」想（おも）いで綴（つづ）った日記である。

連日連夜「日本中の空がB29でおおわれたよう」な空襲下で死の恐怖に脅かされながら、何のためでもなく、考える必要も、幸福もない、ただ「いい作品を書く」以外ないというこの想いは死線を越えた、まるで肉体を離脱した人間の発するような言葉である。

小説を書く手を止めず修羅のごとく創作に突き進み、常に自分の病弱と「家の中に暴風を吹きよせ」る妻とのはざまで神の恩寵（おんちょう）にすがり、祈りながら、ひとときも心の安らぎのない状況。創作を唯一の生命の証しとして書き続ける孤高の精神に、空襲は容赦なく日本全土に拡大していく。

著者の創作意欲と西洋文学への強い関心は現実逃避のようにも思えるが、死を覚悟した芸術家には最後の砦（とりで）でもあろうか。さらに、芹沢の神への深い想いは、森羅万象に宿る自然の法則と摂理によって神が創造と結びついた命の根源であることを信じているゆえであろう。

終戦の年の3月10日、10万を超える死者を出した東京大空襲。その後、芹沢は軽井沢に疎開し、空襲からは免れるが、毎日の開墾生活は病弱の身には過酷で、貧困と空腹に苦しむ日々が続く。少数の指導者が日本を戦争に導いたことに怒りをおぼえながらも、日記の執筆はやまない。発表のあてもないだけに「己をごまかしたりせずに、魂のいぶきを」作品として残したいという彼の人間主義は、崇高でさえある。

芹沢はあくまでも芸術の力を信じ、戦争が終結するならば「ほんとうに活動すべきは芸術家だ」と書く。さらに「自分を神の殿堂としなければならない」とも。その答えこそが晩年の、長大な『人間の運命』や、『神の微笑』ほかに結実する「神」と「人間」への思索なのだ。今再び僕は「人間」シリーズを読み始めた。

横尾忠則（よこおただのり）美術家・作家

1936 年生まれ。60 年代からグラフィックデザイナーとして活躍、80 年に画家に転向。画集に「赤の魔笛」「人工庭園」、著書に「インドへ」「名画感応術」など。2009 年より朝日新聞書評委員。

電子書籍の紹介

① サムライの末裔	P＋D　BOOKS　小学館
② 春の谷間	角川ｅ文庫
③ 孤絶	P＋D　BOOKS　小学館
④ 坂の上の家	角川ｅ文庫
⑤ 愛と知と悲しみと	SHINCHO　ONLINR　BOOKS（新潮社）
⑥ 離愁	角川ｅ文庫
⑦ ブルジョア結核患者	P＋D　BOOKS　小学館
⑧ 故国	角川ｅ文庫
⑨ 愛と死の書	SHINCHO　ONLINR　BOOKS（新潮社）
⑩神の微笑	新潮文庫

『編集後記』

12 月の「神の微笑　朗読会」でふと感じました。「神の微笑」は、３８年前に出版されたことに気付きました。私は、まだ１０年位しか経っていないと思っていたのですが、やっと多くの読者の皆様と光治良先生の神について語りあえることが出来ました。又、時機を同じくして、新潮社より、「神の微笑」が電子書籍として 12 月 20 日から配信されることになり嬉しい限りです。

今回、全国の芹沢文学読書会の皆様から活動報告を戴きました。全国の会員の皆様へ最寄りの読書会に友人を誘ってご参加ください。盛り上げてください。
ご支援のほどよろしくお願いいたします。

“来年３月頃に、光治良先生を偲んでの「文学講演会」を計画しています。
後日、HP でお知らせします。　お楽しみに待っていてください・・・。“

●お知り合いの方に会員になっていただくようにお勧めください。
・「会費無料です。　財団ホームページより簡単に登録できます。」

●次回発行は 2025 年６月を予定しています。

発行：　一般財団法人　芹沢光治良記念文化財団
〒164-0003　東京都中野区東中野 5-8-3
代表理事　勝呂奏
事務局　池田 三省　メール：serizawa.52@nifty.com
財団ホームページ　URL　：http://serizawa-kojiro.com

『2025 年も“平和で良き年”になりますよう。』